

# ブドウ「オーロラブラック」の特長を さらに引き出す無核肥大処理法

表1 無核肥大処理方法の違いが簡易被覆栽培「オーロラブラック」の果実品質に及ぼす影響

処理区 <sup>z</sup>	果粒重 (g)	糖度 (° Brix)	果皮色	
			(C.C.)	8以上の割合(%)
1回処理	21.4 b	18.0	7.3 a	33.0 a
2回処理 (GA25)	23.1 a	18.1	6.3 b	0 b
2回処理 (F5)	22.2 ab	18.0	6.5 b	3.0 b
有意性 <sup>y</sup>	**	ns	**	**

<sup>z</sup>1回処理区：満開期ジベレリン (GA)25ppm+フルメット (F) 10ppm処理

2回処理 (GA25) 区：満開期GA25ppm+F2.5ppm、満開約2週間後GA25ppm処理

2回処理 (F5) 区：満開期GA25ppm+F2.5ppm、満開約2週間後F5ppm処理

<sup>y</sup>Tukey法により (果皮色の8以上の割合はBonferroniの母比率の検定)、\*\*は1%水準、\*は5%水準で同列内の異符号間に有意差あり、nsは有意差なし



図1 1回処理適期の花穂の外観

## 開発のねらい

岡山県育成の「オーロラブラック」は、大玉で着色が良く、日持ちのよい品種です。栽培法は「ピオーネ」に準じていましたが、本品種の特長をさらに引き出す無核肥大処理法を確立しました。

## 新技術の概要

- 1回処理区は、2回処理 (ジベレリンGA25) 区及び2回処理 (フルメットF5) 区に比べて、果粒重は小さい傾向があるものの20g以上と十分な大きさで、糖度には大差がなく、果皮色の値は明らかに大きく、着色が優れます (表1)。
- 1回処理の適期は、満開3~5日後です。この時期の子房径は3~5mm程度であり、処理時期の目安となります (図1)。

## 活用場面

大玉で着色のよい果実が生産でき、付加価値が高くなるため、農業所得の増加に大きく貢献できます。